

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞
TOSHIKO『メイ』のいきいきホームニング』取材紹介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 **福音の園・埼玉 事務局**

☎049・2300・1111(FAX)2300・1112

ホームページ・http://.geocities.jp/gospelgarden/

ホームドクターの声

医療の効果を引き出す「介護力」

厚友クリニック若葉院長 星原 政吉
開園4周年おめでとうございます。

開園当時から園にかかわらせていただき、利用者の「生きる力」を十分に引き出している福音の園の「介護の力」には、医療とは一味違った力を感じております。

ご承知のとおり、治療安静や機能回復のリハビリが中心の医療となっています。しかし逆に高齢者においては機能維持のために安静を主体とした療養を必要としない場合もあります。介護スタッフだけではなく看護師との生活状況把握のための医療連携や、認知症特有の問題行動を問題にしない許容のある介護は、時にお薬以上の効果をもたらした患者さんもいました。「医療」や「介護」と分けるわけでもなく、どちらかに偏っているわけでもなく、利用者本位の「生きる力」や医療の効果を引き出す「介護力」を一緒に経験し学ばせてもらっています。

開園四周年に寄せて

愛に基づいた「介護力」を高めるために

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
本紙第三十七号(本年一月号)で、『望ましいケアプラン(介護サービス計画)は、ケアマネジメントとリスクマネジメントがバランス良く調和された時に初めて達成される』ことを実践経験から確信する一人として、いまだ「鍵をかけないケアの実践」には至っていないことを情報開示したい。今後実践できないだろう。』と記して問題提起したところ、寄せられた反響の中に次のような声があった。

「外部評価項目『鍵をかけないケアの実践』に反しても重度利用者に即したケア方針を貫いておられることに驚いた。」「玄関を出て行かれる度に、職員が後から追いかけるように対応している。ストレスを抱えている現場の声に、管理者は『鍵をかけないケアの実践』一点張りです!」—まるで何者かに縛られているような運営を推察するときに、全国一斉学力テストを気にする余り、採点を細工してまで自校評価を上げようとする学校管理者の心理とどこか重なって見えた。

反論できない「介護力の無さ」

毎日新聞特集「どこで死にますか」



(本年三月八日付)の、『実際、内部に看護師を置いたり、協力医療機関と連携を取っているホームは6割程度(全国グループホーム協会調べ)。看取りどころか、要介護度が上がる、退居させるホームもある。』が目止まり驚いた。いとも簡単に退居させる真意は何処から出るのか。要介護度が上がった状態で、退居・転施設させたら認知症状を悪化混乱させることは認知症ケアの

エキスパートであるグループホーム当事者なら誰もが熟知しているはず。「退居させるホーム」は「当ホームには介護力がありません」と自己申告しているに等しく、「業務優先・利用者置き去りだ!」と指摘されても反論できない。「利用者の権利」が盛り込まれた「グループホーム倫理綱領」(全国グループホーム協会)に背く行為だと言わざるを得ない。業務IIイコールケアではない。「福祉は人なり」介護は詰まるところ全人格的なものが問われている。

グループホームの利用者には、認知症についての正しい理解および介護サービスについての専門的な知識と技術を持つ職員チームによって、「一人ひとりの状況と希望」に合わせた適切な介護サービスをj受ける権利があります。(グループホーム利用者の権利)抜粋

成熟する愛を追い求めて

サービス評価として、マニュアルが備わっているとか、ケアプランに基づいてケアを展開しているかといったチェックは、あくまでもケアの入口であって、ケアそのものの評価ではないはずだ。

愛が成長していく、成熟していく。四年間を振り返って「介護力」とは「成熟する愛」だと実感している。自分の親を介護するのに、要介護度が上がったからと言って放棄しない。最期まで看取るはずだ。一人では担えないから、スタッフ総力で十八名のご利用者を自分の親のようにお世話する。ここに「愛に基づいた介護力」がある。ケアの入口であるチェック項目からは見えてこない部分における「愛に基づいた介護力」を高めてこそ、グループホームに対する社会の信頼感を高めるものと認識している。

来訪歓迎

居宅介護事業所 みずほ様 (川越市)

御礼

ブドウ 稲田 晃様 (長野県松本市)